

令和6年12月3日

研修だより 47号



## 個別最適な学びとは？

小笠原康晃

「個別最適な学び」とは、どのような学びなのでしょう。

そもそも、なぜ個別最適な学びが求められているのでしょうか。

それは「子供の個性を伸ばすため」と私は考えます。

これからの日本社会は人口減少社会です。

1億人をこえる日本人がいた頃に、必要なのは「選抜」です。

数多くの人材から優れた人材を選抜し、選抜された人が頑張って、他の人たちを助ける。

「競争」をさせることで、鍛え上げ、優秀な人材を育成するのが「選抜」の目的です。

その一方で、選抜されなかった人のことは、あまり考慮されません。

しかし、人数が多いため、「選抜」をしていれば何とかなりました。

これから1億人を下回る日本人に必要なのは「育成」です。

一人一人の個性を活かし、その人の得意分野で他者の役に立つ。

「個別最適な学び」とは、「選抜」を中心にした教育観から、「育成」を目的にした教育観への転換だと、私は考えます。

「育成」ですから、誰が、何を得意としているかを見極め、その得意なことを伸ばしていくことが大切です。

「選抜」の教育に慣れてしまっている私たちは、一律的な指導をしがちです。

一斉指導や高圧的な指導、一つの答えを求める指導は、「選抜」指導の名残です。

これから必要になるのは「育成」です。

一人一人が持つ力を十分に発揮させる場が欲しいです。

個に応じた指導や多くの答えから自分の納得解を見つける指導こそ、「育成」に関する指導です。

教えるべきところはきちんと教える。

考えさせるときは、とことん考えさせる。

メリハリをつけることで「育成」の指導につなげることができると考えます。